

福井県

あわら市

「世界から愛されるまち
AWARA」を目指して人口 26,537 人 面積 116.98 km²

都市の特長

古くから宿場町として栄えてきた金津町、明治時代から温泉街として発展した芦原町が合併して誕生。2024年に北陸新幹線芦原温泉駅が開業し、関東圏からのアクセスが向上し、宿泊拠点として注目度が高まっている。

あわら市

AWARA CITY

課題・背景

県内随一の温泉地・あわら温泉は、①地域経済の縮小、観光事業者の人材不足等(経済的課題)、②旅館送迎バスの見直し、空き家(環境的課題)、③若者の市外流出等(社会的課題)の課題を抱えている。

施策の方向

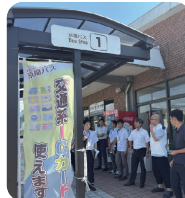
2024年に「あわら市観光まちづくりビジョン」を策定し、あわら温泉の将来像やアクションプランを官民連携により検討した。行政と民間の役割を明確にし、観光を切り口に、①経済的課題、②環境的課題、③社会的課題について、総合的に解決していく。

01

温泉街のランドスケープ再編・
環境に配慮したモビリティ戦略

自分たちが誇れるあわら温泉らしい景観の創出や滞在したくなる空間づくりに必要な機能、まちなかの回遊性を高めるための動線づくりなどについて協議を行いながら、エリアのランドスケープを検討する。また、エリア内の交通再編に向けて、交通量調査や旅館の送迎バス共同化の実証実験を実施する。

交通の現状を調査



02

空き物件改修などの民間主導の
プロジェクト推進

あわらを訪れる人も、あわらに住み、あわらで働く自分たちも楽しめるまちを目指して、若手を中心に空き家、空き店舗を活用し、カフェ、ワーケーション施設、チャレンジショップなどの新規出店を進める。

準備委員会で
プロジェクトを検討

インタビュー

Interview

あわら市 経済産業部
観光振興課 主任
久保 麻莉 さん

長門湯本温泉
まち株式会社
エリアマネージャー
木村 隼斗 さん

様々な事業者と連携して行なうなかで、意見の食い違いも多々ありますが、その都度専門家を含めて話し合い、方向性を決めています。地元協議を数百回行った長門湯本温泉を参考に、地域に密着したまちづくりを進めたいです。

地域の人々が「あわら市観光まちづくりビジョン」に沿って事業を進めることで、まちづくりは前進します。あわら市独自の資源に根差した魅力づくりを、官民が総力戦で取り組むことで、地域の持続可能性に貢献したいです。



(左) 長門湯本温泉まち株式会社 エリアマネージャー
木村 隼斗 さん

(右) あわら市 経済産業部 観光振興課
主任 久保 麻莉 さん

今後の展望

「あわら市観光まちづくりビジョン」で策定した将来ビジョンを見据えて、世界から注目されるようなあわら温泉にするとともに、持続可能なエリアにしていく。また、地域の事業者が稼ぐ仕組みづくりを行いながら、エリア全体のマネジメントを持続可能な形で進めていくために、総合的に課題を解決し、将来を見据えた運営スキームを検討していく。

田んぼの真ん中にある
自然豊かな温泉街

